

平成 28 年度 第 4 回（相談支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 29 年 2 月 22 日（月） 14：00～17：00

2. 開催場所：八女市役所立花支所市民センター

3. 参加者（所属のみ）

陽だまりの里、蓮の実団地よろず屋、蓮の実園ゆるっと、ねんりん、ココ kara、広川町、八女市、リーベル

4. グループスーパービジョン

○講義『支援を拒否する当事者への介入』～医療・高齢者福祉・障害者福祉の連携～

講師 大牟田天領病院地域医療連携室 課長 医療ソーシャルワーカー 梅田真嗣 氏

◆支援を拒否する方の事例

本人と高齢の母親の 2 人暮らし。本人受診後に医療ソーシャルワーカーより相談支援事業所に繋がったケース。その後、自宅訪問するものの、支援を求めない本人との関係構築に苦慮。母親自身も将来の心配はしているものの、支援を求めることはない現状。介護保険事業所と連携しながら対応を模索しているケース。

○事例検討会とスーパービジョン

事例検討会は事例、スーパービジョンはスーパーバイザーと、主役は明確に異なるが、実際事例を使う場合は、どこに力点を置くかにより名称が異なる。

・3つの力点：個人、職業人、事例

⇒今回のグループスーパービジョンは、職業人としての成長に力点を置く。

今回のスーパービジョンでは「個人」の部分は扱わない。

◆情報への視点

どこに立って、どのように見るかにより、集め方、意味づけも変わってくる。見方を変える。

◆クライアントとは

本人が困っているか。困っていて相談員の助けを借りたい。

ただクライアント相談の意思がないと介入が難しい。

◆本人と話す時の視点

無理のない範囲でチューニングを合わせる（いかに情報を得るか）。本人が何を楽しく思えるか、何を話したら喜ぶか（入口）。

※本人にとって楽しい人だと思ってくれると本人が間口を開いてくれる。

※一回、向こう（相手）に飛び込む。

本人が楽しいと思うものは何か、何が好きか。訪問時、何のテレビを見ていたか、どんなお菓子やジュースを飲んでいたか等、本人の生活場面から、本人が好きな物を読み取り、それを話題しながら距離を縮めていく。

○この研修会での一番のポイント

見方（視点）を変える、相手の文化に溶け込む。